菊池市の家計簿
～貯金と借金と財産～
パート②

問い合わせ先　財政課　☎0968(25)7205

先月号では平成27年度の決算状況についてお知らせしました。今月は菊池市の貯金（基金）と借金（地方債）と財産の状況についてお知らせします。

借金は減少傾向

地方債残高（借金額）は、
❶地方交付税の振替分として国が将来全額を補てんする「臨時財政対策債」（交付税算入率100％）
❷国が補てんを約束している「合併特例債」（交付税算入率70％分）などの地方債の額
❸市が全額を後年度に返済しなければならない「その他の地方債」
の3つに分かれます。

借金総額は表面上増えていますが、実質的な借金❸は年々減少しています（次ページ表3）。

財政状況は〝健全〟

借金は少ない方が良いのは当然ですが、未来のための投資も必要です。借金が将来のつけまわしにならないよう、国が示す「財政健全化の指標」などを見据えながら財政運営に努めています。例えば、現在抱えている借金のうち、将来の実質的な負担がどの程度かを示す指標に「将来負担比率（表1）」があります。この指標は350％を超えると早期に健全化を図る必要があると判断されますが、本市は貯金などがあるため平成27年度の指標はゼロ以下。県内14市のうち指標がゼロ以下となるのは、本市と合志市のみです。

収入に対する借金返済の割合を示す「実質公債費比率（表2）」も7・7％と低く、県内14市のうち3番目に良い数値となっています。

貯金は124億円

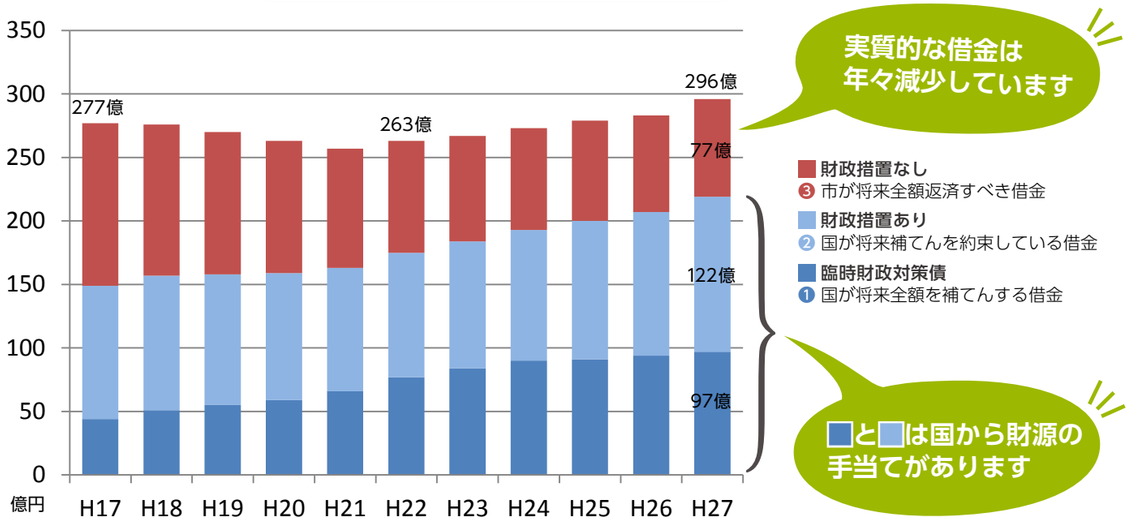
本市の貯金残高は、平成27年度末で124億円（定額運用基金の土地開発基金は除く）で、他自治体と比較しても多い方です（次ページ表4）。熊本地震では、貯金のおかげで国・県の財政支援を待つことなく、迅速な復旧・復興に取り組むことができました。本年度は熊本地震被害からの復旧・復興事業をはじめ、庁舎や生涯学習センターなどの大型事業、老朽化した施設の改修などに充てることにしており、貯金は少なくなる見込みです。

【表1】将来負担比率

【表2】実質公債費比率

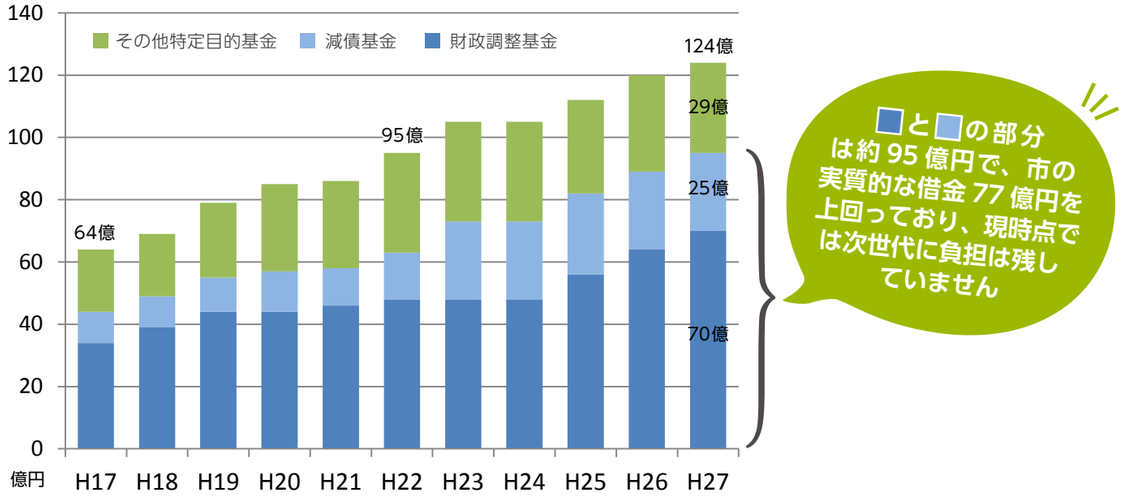
借金額

【表3】地方債現在高の推移



貯金額

【表4】基金現在高の推移



～今後の課題～
公共施設の老朽化が大きな問題に

合併特例期間が終わり、地方交付税の縮減が平成27年度から始まるとともに、今後は少子高齢化や生産年齢人口の減少で税収が減ることが見込まれています。一方、福祉関連予算の扶助費などは増える見込みで財政状況が厳しくなることは避けられません。

公共施設などの老朽化も大きな問題です。総務省は、この全国的な問題に対処するため、本年度末までに「公共施設等総合管理計画」を策定するよう指示しました。これを受け、本市はパブリックコメントや菊池市公共施設等総合管理計画策定審議会から意見を聞き、公共施設などの管理に関する基本方針を策定。将来にかかる更新費用の試算と、今後も適切に維持していくための方向性を検討し、今後40年間で52・2％の削減目標を設定しました。

平成29年度からは、目標に沿って、公共施設などの適正配置と機能維持、効率的な施設運営を推進し、財政負担の軽減と、市民サービスの維持・向上に努めていきます。

本計画の詳しい内容は、広報紙や公式ウェブサイトで随時お知らせしていきます。